

学力向上ワンポイント情報

主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善について（社会）
～令和2年度鹿児島学習定着度調査の結果から～

義務教育課

出題

- 令和3年1月に実施した鹿児島学習定着度調査では、小5社会科の平均通過率は75.5%、中1は64.4%、中2は67.6%でした。
- ・ 全学年、難易度は例年並みで、当該学年で学習する内容を、基礎的・基本的な問題と思考・表現に関する問題を約3：1の割合で出題しています。
 - ・ 小5は、鹿児島と新潟の雨温図を比較して気候の特色を説明する問題や資料を使って日本の食料問題を説明する問題等を出題しています。
 - ・ 中1は、写真や雨温図を基に気候の特色を説明する問題（毎年出題）や郷土の人物に関する問題（毎年出題）等を出題しています。
 - ・ 中2は、緯度・経度を活用し、時差等を求める問題（毎年出題）や江戸時代の大名の配置や参勤交代について説明する問題等を出題しています。

特徴ある問題から（中1，地理）

世界各地の人々の生活と環境に関する内容で、社会的事象を人間の営みと関連付ける地理的な見方・考え方を用いる問題です。

(3) 資料3中の建物は、地図中のイルクーツで見られる住居である。資料3のような建物になっている理由を、資料4の雨温図の特徴にふれて説明せよ。

(資料3) イルクーツの住居



(資料4)



平均通過率
…47.5%
無解答率
… 3.7%

授業では、雨温図から分かる1年間の気温差、降水量の多い（少ない）月などの気候的な特徴と該当都市の緯度や地形などの地理的な条件に着目させ、気候を決定する要素は何かを考えさせることが大事です。例えば、①まず、雨温図の読み取り方を学習する時間を設定する。②次に、いくつかの都市を指定して、適切な課題を設けて行う学習に取り組ませる。③そして、既習学習を生かしてその他の雨温図の学習を行うなどの授業が考えられます。

こんな授業を提案します（主体的・対話的な授業づくりのために基本を押さえる。）

「雨温図の見方（読み取り方）」 ⇒ 5つのキーワードを意識させましょう。

キーワード	折れ線グラフ	棒グラフ
1 平均	・ 平均気温は何度？	・ 平均降水量は何mm？
2 高い（多い）	・ 最も気温が高いのは何月？	・ 最も降水量が多い月は何月？
3 低い（少ない）	・ 最も気温が低いのは何月？	・ 最も降水量が少ない月は何月？
4 差	・ 最も気温が高い月と低い月との差は何度くらい？	・ 最も降水量が多い月と少ない月との差は何mmくらい？
5 特徴	・ 気温の変化にはどんな特徴があるか？	・ 降水量にはどんな特徴があるか？

⇒（気温と降水量の関係から）その場所の気候にはどんな特徴があるのか？をまとめさせるなどして定着を図る。

授業改善のポイント（小中共通）

学習指導要領改訂により、社会的事象そのものが学習内容である社会科においては、**社会との関わりを意識した課題解決的な学習活動**を取り入れた授業実践が期待されています。

授業では、社会的な見方・考え方を働かせ、ペア・グループ活動などを取り入れながら多面的・多角的に考察・構想し、その過程や結果を説明したり論述したりできるようにすることが期待されています。

- 生きて働く知識の習得場面と思考力・判断力・表現力等の育成場面を、授業にバランスよく取り入れる。
- 授業を工夫する。教科書をなぞるだけの授業、ワークシートの穴埋めの解説だけの授業から脱却する。「**学びの羅針盤**」を使って再度、授業づくりのポイントを確認する。**考えさせる場面を必ず入れ**、「主体的・対話的で深い学び」の授業を実践する。
- 定期的に復習する場面を取り入れる。小テスト等で重要語句などの基礎・基本の定着を図る。また、「**かごしま学力向上支援Webシステム**」上の評価問題等で思考力・表現力の育成を図る。授業を工夫して時間を見だし、復習する時間を確保する。
- 新聞記事等を活用して、**タイムリーな話題を提供し**、政治等に関心をもたせる。あわせて、自分たちの住んでいる郷土についても関心をもたせる工夫をする。
- **I C Tを積極的かつ効果的に活用する**。意図的・計画的に行い、適切な場面で、適切に活用する。I C Tを活用することで、例えば、地図や時差の学習では、具体的にイメージしやすく、また理解しやすくなる。
- 小・中の連携を意識して、中学校教員は、「**追究の柱**」を立てて課題解決的な学習を実践している小学校の授業を見ること。また、小学校教員は、履修内容が専門的になる中学校の教科書を読むこと。教科の系統、指導法の一貫性などを意識して、授業を行うことが大切である。

■ こんな授業を提案します（主体的・対話的な授業づくりのために基本を押さえる。）

「**グラフの見方（読み取り方）**」 ⇒ **表題の3点・単位の2点・変化の5点**を意識させましょう。

キーワード		読み取るポイント
表題の 3点	・表題（タイトル）は？	・グラフが何を示しているのかが端的に分かる。 … 最初に確認！
	・年度は？	・年度の新しいほうが資料としての価値が高い。
	・出典は？	
単位の 2点	・縦軸の単位は？	・その数量の単位→ 円？ トン？ など … 読み上げて確認する。
	・横軸の単位は？	・通例、年度になる→ 毎年の数値か？ 2年おきか？ など … 数字を横に見ながら、確認する。
変化の 5点	A 段々上がる	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの傾向をつかむ。 ・CとDには要注意。 → そのようになった原因、理由、背景等を考える。
	B 段々下がる	
	C 突然上がる	
	D 突然下がる	
	E 変化なし	

⇒ グラフの読み取り方を教える。**変化の5点**を課題にした授業を実践する。

【折れ線グラフの指導例】

- 1 「**漁業別の生産量の変化**」 → 沖合漁業増加、遠洋漁業減少
[令和2年度 鹿児島学習定着度調査(小5)4] (3)に出題]
- 2 「**米の消費量と生産量の変化**」「**米の作付面積の変化**」 → 消費量、生産量、作付面積の減少
[我が国の農業における食料生産について(小5の教科書)]